

【特集】西原 浩 第3代所長を偲んで

去る 2022 年 9 月 12 日に、第 3 代所長西原浩先生が 85 歳でご逝去されました。

西原先生は、2002 年 4 月から 2008 年 3 月までの 6 年間にわたり、新たに大阪教育大学天王寺キャンパス中央館へ移転したばかりの大阪学習センターをより充実した施設にするべく、大変にご尽力いただきました。また、在任時に始められた大阪学習センター独自の学生支援イベント「学習支援の集い」、「卒業研究ガイダンス」や「修士課程を目指すガイダンス」は、今もセンターのよき伝統として、発展しながら続けられています。この度、西原 浩先生を偲び、歴代所長の先生方等から思い出をご寄稿いただきました。



大阪学習センター第2代所長 俣野 彰三

昨秋(9月13日)、山本事務長より電話があり、西原先生の訃を告げられた時は、余りにも突然のことで、呆然としました。私の所長停年半年前(平成13年9月)、副学長より後任推薦の依頼があり、私は岸本忠三大阪大学総長(当時)にお願いして紹介いただいたのが、図書館長を経て名誉教授になられた西原先生でした。先生のお仕事は、私には全くわかりません。電子工学で情報関係ではなく、機器そのものの専門家で貴重な存在であるとお聞きしました。放送大学でも高く評価されて、着任早々本部に招かれて放送授業を開始、大活躍されました。幸いにも先生自身も放送大学に愛着を持たれてすっかりとけこまれましたので、私としてもホッとしたことでした。センターの節目の行事には、いつもご案内いただき、私もできるだけ出席、センターの近況など、つぶさにお話いただきました。ある時期のテレビ、新聞によく出てきた防衛大学の西原校長の顔が先生にそっくりで、教授会でも話題になったらしく、伺ったところ、「双子の兄貴です」で一同納得した次第。ご自身の後任推薦では、「理系の所長が3代続いたので、次は文系の候補を推薦する」とのことでした。思い出はつきません。

先生のご冥福を衷心より祈念いたします。

西原 浩先生を悼む

第4代所長 柏木 隆雄

昨年9月の西原先生のご訃報には本当に驚いてしまった。そのほぼ1年前の10月30日、大阪学習センター30周年の式典で久しぶりにお目にかかり、いつものように歓談ののち、阪急梅田駅で翌年の「みおつくし会」での再会を約束してお別れしたばかりなのに、と信じられずにいた。

先生に初めてお会いしたのは、学習センター所長を退任される2008年3月の難波の料亭での「みおつくし会」の席であったか、あるいは同じ頃センターで行われた先生の退任パーティーの場が先だったか。それともお昼にパーティーで、その夜の難波の会だったか。4月から新しい職場となる学習センターを初めて訪れた者には、老若男女の学生たちに囲まれた先生の満面笑みを浮かべられたお顔がまことに印象深く、職員の人たちからも心底から敬愛を受けておられるのがよくわかり、翌月から赴任する新米所長には、ちょっと妬ましくさえ思えたほどだ。

以後、所長退任後にセンターに顔を出される度に、殺到するファンたちにはこやかな笑顔で接していらして、文字通りのミスター大阪学習センターの面目躍如。その西原先生のご逝去から半年、優しく、かつ真摯なお話しぶりを懐かしく思い出している。

＜矜持と含羞＞の人 西原 浩先生を偲ぶ

第5代所長 林 正則

センター事務局から西原浩先生のご訃報を受け取ったとき、先生があいつも変わらぬ、はにかんだような笑顔で、「それじゃ」と軽く手を振って去って行かれる後姿がまぶたに浮かんだ。そのとき、先生にはまたすぐにお目にかかれるのだとしか思えなかった。

先生は私の在任中もしばしば所長室を訪ねてくださって、センターの様子をいつも気にかけてくださった。そんなとき、先生のセンターに寄せる愛着と学生に対する愛情が心に沁みだした。今のセンターのおおらかで、なごやかで、洒脱な気風を作り上げられたのは、西原先生だったのだとしみじみ思った。先生が描かれたたくさんの水彩風景画を眺めていると、どの作品にも対象を見る目の確かさとやさしさが感じられ、先生の学問がどんなものだったのか、先生がセンターの学生とどう向き合っていたのか、よくわかる気がした。

学ぶこと、研究することは孤独な作業だが、同時に一人でできるものでもない。同窓会、履修ガイダンス、サークル活動、河堀祭など学生同士の人間的、知的交流をつねに温かくサポートされ、学ぶとは世界に向かって自分を開いてゆくことなのだと、先生は繰り返し説いておられたように思う。先生の背中を追いかけてきた私だが、おりおり振り向いて私の方をじっと見つめられる先生の＜矜持と含羞＞の眼差しは、いまでも変わらず私を励まし続けてくださっている。

西原 浩先生の思い出

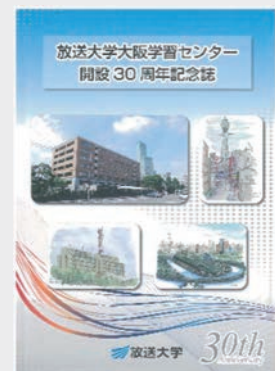
第6代所長 西田 正吾

9月に西原浩先生がご逝去されたという連絡が入った時には、5月の大阪大学創立90周年記念式典でお会いしたところだったので、本当に驚きました。その後、豊中教会での告別式にも参列させていただきましたが、西原先生が教会で多くの若い方々の支援や教育活動を行ってこられたことや教会の皆様から慕われておられたことを知って、改めて先生の素晴らしいお人柄を思い出した次第です。

放送大学においても、私が所長を務めさせていただいた7年間の間、先生とは毎年3-4回はお会いしておりました。秋の美術展には毎年2点の水彩画をご出展いただき、表彰式にもご出席いただきました。又、放大河堀祭にも、イスラムのお話をさせていただいた高橋和夫先生や元学長の岡部洋一先生の講演会等にご出席いただきましたし、大阪SC開設30周年記念式典の日にも、センターに来ていただきました。この30周年記念誌では、先生の水彩画3点を表紙（右写真）に使わせていただいたことも記憶に新しい所です。

最も強く印象に残っていることは、先生の所長在任中に、大阪SCでガンでなくなった学生さん（この方は大阪SCをこよなく愛しており、死の直前までセンターに来ていたと聞いております）がおられたのですが、この方のことを北野生涯教育振興会の懸賞論文「死に逝く者の学びから得たもの」に取り上げて入選した三上香子さんの受賞記念に、この方が働いておられた大阪ビジネスパークから見た大阪城の水彩画（次頁写真）をご寄贈いただいたことで、この絵は今でも視聴学習室に飾られています。

西原浩先生のご冥福を心より祈念いたします。



西原浩先生ご逝去の報に接し

大阪学友・同窓会会員 三上 香子

西原先生には、大阪学習センターに絵画を寄贈していただきました。これは、京橋のOBPビルからの景色を西原先生ご自身が描いてくださった水彩画（掲載写真）で、放送大学を心から愛した亡き学友「Aさん」に関わりのある出来事でした。詳しくは「みおつくし第65号」にご紹介されています。

西原先生に最後にお会いしたのは、平成29年5月に開催された公開講演会でした。そこでは幼少期から電気機器の仕組みに興味をもち、好きなことを遂行するなかで人々と出会い、研究者になられた西原先生のご経歴がわかりやすく話されました。そのとき会場は満員で、外にも「西原先生に一目会いたい」という学生や同窓会会員があふれていました。

公開講座の後、前センター長の西田正吾先生のお計らいで、西原先生と私ともう一人の学生の4名で会食の機会をいただきました。西原先生は、Aさんとの思い出話を「そうだったねえ」と目を細めて聞いてくださいました。西原先生は、プライベートでも温かいお人柄がにじみ出る、魅力的な先生でした。

私は、西原先生の「三上さんは、受容力があるんですね。しかし雷の私の説明に対しては受容力がないのはどうしてでしょう」というご質問に、きちんとお答えすることができないままになっていることが悔やまれてなりません。もっと雷について話したかった。

西原先生のご冥福をお祈り申し上げます。



「大阪城—ツイン21 OBPタワーから—」
(図書・視聴学習室)

美術部より、西原先生の思い出

前美術部部长 木村 雅裕

西原先生には、美術部の活動に際して、大変お世話になりました。

2004年に約20名の部員で美術部を発足し、翌年には美術展を催したいとの気運が盛り上がりました。当時の所長でした西原先生に相談したところ、美術部としての美術展ではなく、一般学生や職員からも広く作品を募集して、大阪学習センターの美術展にしてくださいとのことでした。美術展では、金、銀、銅賞を表彰しようと企画し、作品をどう選考するかと悩み、恣意的にならないよう、美術展に来場された方からのアンケートにより決めることにしました。美術展の開催にあたり、西原先生が助成くださり、金賞は、学習センター所長賞として、また銀賞、銅賞にも、事務長賞、美術部長賞として、それぞれ副賞の図書カードをお渡しできることになりました。

西原先生は、毎回素晴らしい作品を出展くださり、それらが大変良い作品ばかりでしたので受賞対象となることから、3回目からは、西原先生の作品は招待作品として出展いただきました。

西原先生は、先生自ら声をかけてくださり、親しみやすく、気兼ねなく話せて、ユーモアもあり、楽しいひとときを過ごさせていただいたことに感謝いたしております。

絵画をご寄贈いただきました

昨年11月に、西原浩先生のご遺族より、水彩画「同志社大学クラーク記念館」、「鶴見緑地公園風車と花見の丘」の2作品（表紙写真）を、大阪学習センターへご寄贈いただきました。西原先生からは、生前より多くの絵画作品をご寄贈いただき、センターに飾らせていただいております。

ご来所の際には、ぜひご覧ください。